

TEMPUS テンパス

2018年(平成30年) **65** 号

貝塚市内の 行基ゆかりの地と文化財



孝恩寺収蔵庫の仏像群(木積・こつみ)



水間寺(水間)



水間聖観世音出現の滝(水間)



ちご塚(清児・せちご)

も く じ

貝塚市内に残る行基伝承

平成30年度の企画展・特別展のお知らせ

千石堀城跡の発掘調査 その3

講演会「真宗史から見た市の文化財」を開催しました

／『貝塚市の70年』を読む会 春の記念講演会を開催しました

古文書講座－市内に残る身近な古文書－

文化財講座・セミナー



永寿池(地藏堂)

貝塚市内に残る行基伝承

行基（ぎょうき、668～749年）は、畿内（近畿地方）を中心に、人びとに仏教の教えを広めるとともに、貧しい人びとの救済や土木・治水などの社会事業を進めたことでも知られる奈良時代の僧です。今年、平成30年は生誕1350年にあたります。

貝塚市内では、水間の厄除け観音として有名な**水間寺**【表紙写真】や、木積（こつみ）にあった**観音寺**（国宝の観音堂（釘無堂）を所有する孝恩寺の前身）を創建したほか、市内最大のため池である**永寿池**【表紙写真】や、近木川河口にあったと考えられる**神前船息**（こうぎきのふなすえ）という港を築くなど、様々な伝承が残っています。

今号のテンプスでは、貝塚市内に残る行基伝承の中から主なものを紹介します。

行基と水間寺

水間寺の創建については、寺に残る縁起（えんぎ）などに次のような伝承が記されています。天平（てんぴょう）16（744）年2月初午（はつうま、2月になって最初の午の日）の夜、聖武天皇（しょうむてんのう）は、奈良の都から南西の方角に聖観音（しょうかんのん）が現れるという夢を見ました。そこで行基にその出現の地を探すよう勅命を下しました。行基は都から白鳥の導きによって和泉国にたどりつきました。その後、十六童子（じゅうろくどうじ）によって水間の地に導かれました。そして水間の滝【表紙写真】で龍神の化身である老人から聖観音像を授かり、その像をまつる寺院として水間寺を創建しました。

この伝承に登場する白鳥が1枚の羽根を落として飛び去った地が**鳥羽**、白鳥を見失い途方に暮れていた行基の前に十六童子が現れた地が**清児**（せちご）で、この2町の地名は、水間寺創建にまつわる行基伝承が由来といわれています。

現在、清児町内の十六童子が現れたとされる場所には**ちご塚**【表紙写真】という小さな石がまつられています。

また、水間寺の正月行事である**水間千本搗餅つき**（みずませんぼんづきもちつき・貝塚市指定文化財）は、聖観音像を授かったことを祝って、行基と十六童子が餅つきをしたことに由来すると伝えられています。

行基と木積の観音寺

貝塚市木積にはかつて観音寺という行基が築いた寺院があったと伝えられています。観音寺の観音堂は、現在の孝恩寺の本堂（国宝観音堂）であり、文化財収蔵庫に収蔵されている重要文化財の仏像群【表紙写真】は観音寺の諸堂でまつられていたものと考えられています。



「水間寺縁起」鳥羽・清児 水間寺蔵



水間千本搗餅つき（水間）

また、古代の木積周辺は**木島杣山**（きのしまのそまやま）とよばれる木材の産地であったと伝えられています。『行基菩薩遺戒』（ぎょうきぼさついかい）によると、行基が四十九院を建立する際に、皇族である橘諸兄（たちばなのもろえ）の領地であった木島杣山の材木を譲り受けたことが記されています。とくに木積の地は材木の集積地であったことから**木積**と名づけられたと伝えられています。



“釘無堂”として有名な孝恩寺観音堂（国宝）

行基と神前船息

貝塚市内を流れる近木川の河口付近に、神前船息という行基が築いた港がありました。安元（あんげん）元（1175）年に著された『行基年譜』（ぎょうきねんぷ）には、行基が74歳のときの天平13（741）年に「船息二所」のうちの一つとして「和泉国日根郡日根里近木（義）郷」に「神前船息」を築いたことが記されています。この港からは、近木川上流の木島杣山から切り出された木材や、近義郷で古くから生産されていた和泉櫛などが都へ運ばれたと考えられています。現在その痕跡は全く残されていませんが、港としての機能を失った後も神前の名称は地名として残りました。貝塚市には**加神**（かしん）という地名がありますが、この地名は古くからあった**加治**（かじ）と**神前**（こうざき）の2つの地名の頭文字を合わせてできた地名です。

＜平成30年度の企画展・特別展のお知らせ＞

貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）では、今年秋より、2つの企画展と、1つの特別展を予定しています。ぜひご観覧ください。

👉 企画展1 「150年の時を超えて - 明治時代の貝塚 - 」

内容 明治元（1868）年から150年にあたる今年、紡績業や南海鉄道に代表される近代産業や交通の発展、近代学校教育の変遷などについて、関係資料から当時の貝塚の姿を紹介します。

会期 平成30年9月8日（土）～10月21日（日）

👉 特別展 「行基と貝塚 - その生涯と伝承 - 」

内容 奈良時代の僧「行基」の生誕1350年を記念して、行基の生涯や貝塚市内に残る様々な事跡・伝承について関係資料から紹介します。

会期 平成30年11月4日（日）～12月16日（日）

👉 企画展2 「楠木正成と中世貝塚の武士たち」

内容 楠木正成と貝塚市域で活躍した中世の武士たちについて関係資料から紹介します。

会期 平成31年3月9日（土）～4月21日（日）

千石堀城跡（せんごくぼりじょうあと）の発掘調査 その3

根来衆の出城として造られた千石堀城は、「根来出城配置図」【右写真】（江戸時代製作、岸和田市教育委員会蔵）に二重の堀が描かれ「今城」と記されています。平成25年度より実施しているこれまでの調査では、外側の堀の北部分、城の出入口である虎口（こぐち）、西側の堀、頂上付近、東側に二重にめぐる堀の状況を確認する調査を実施しました（テンプス53号、55号、56号掲載）。

今回の調査は、内側の堀の東部分（第1区）、頂上南側（第2区）、外側の堀の北部分（第3区、第4区）、城跡の北側（第5区）で調査を行いました。

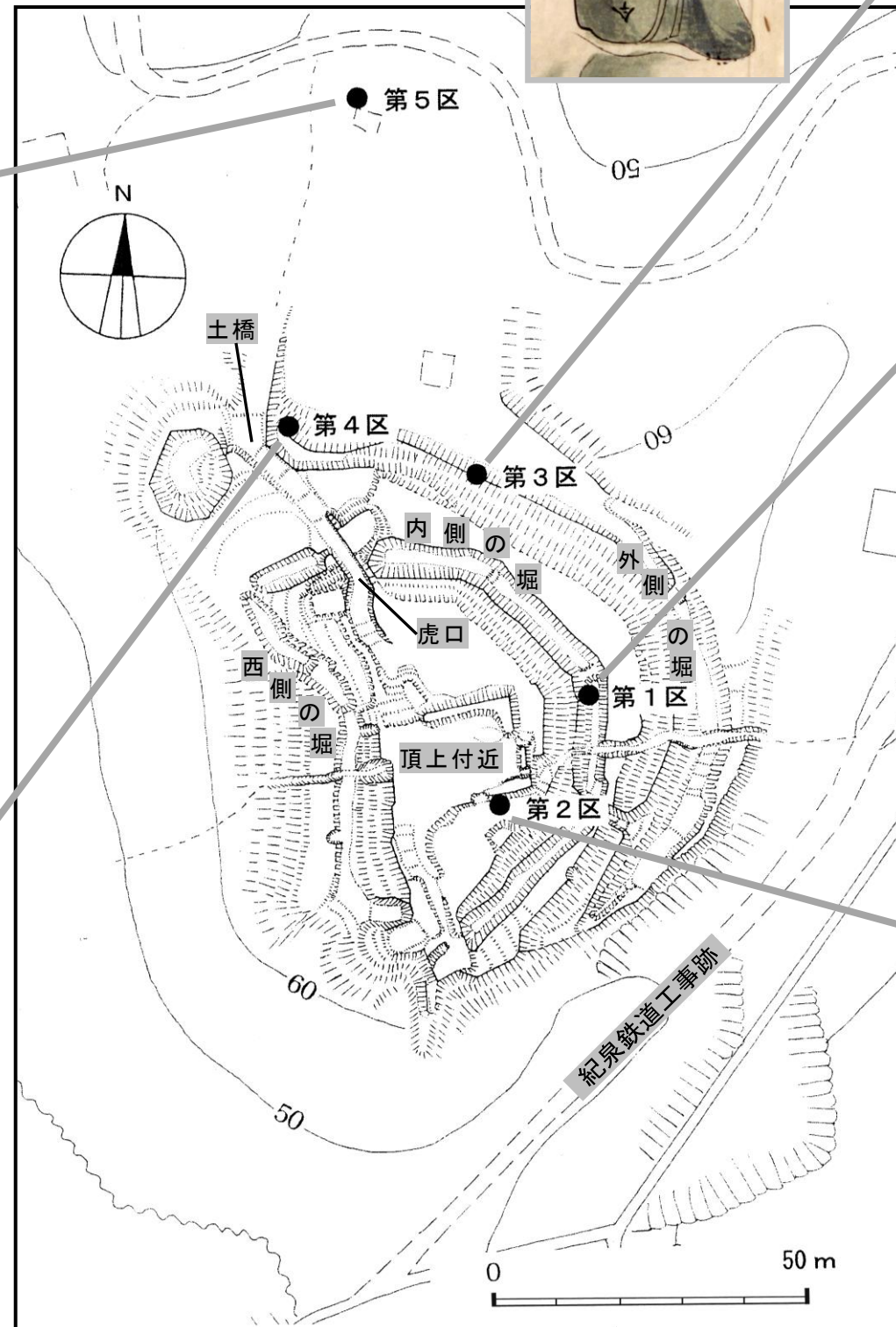
第5区

地層の状況から、堀などの遺構は確認できず、遺物も出土していないことから、城の遺構が北側に広がらないことが確認できました。



第4区

この地点は、城の入口に位置する土橋部分にあたります。遺構は、検出幅2m、深さ約2mの堀を検出しました。第3区と同様に、昭和期の造成により上層が削られました。遺物は出土していません。調査の結果、堀を掘った後に一部を埋め戻して土橋を造ったと考えられます。



第3区

遺構は、幅約4.8m、深さ約1.1mの堀を検出しました。この堀は、外側の堀の北部分で確認している東西方向に続く堀の一部です。第4区と同様に、昭和期の造成により上層が削られました。遺物は出土していません。



第1区

遺構は、幅約4.5m、深さ1.8mの堀を検出し、内側の堀が南側に広がることが確認できました。この調査区では、自然堆積層が見られないことから、掘った後、短期間で埋め戻されたと考えられます。遺物は、平瓦片、焼けた痕跡のある石、炭が出土しました。出土した石は、建物の礎石と考えられます。これまでの調査で出土した2点の礎石と考えられる石とともに、時代や規模はわかりませんが、城内に建物があった可能性が高まりました。



第2区

頂上部は昭和期の造成によって土が盛られ、コンクリート、レンガ片を含む攪乱層を確認しました。城の遺構は確認できませんでしたが、瓦片4点、備前焼甕片1点が出土しました。出土した瓦片は、少量のため推定の域を出ませんが、頂上部で江戸時代に、瓦葺きの建物があった可能性があります。



今回の調査で、城跡の調査区は23ヵ所となりました。調査を始めたころは、城遺構の広がりや、後世にどれだけ壊されたかを確認する調査でした。西側の堀と、東側に二重にめぐる堀が調査で裏付けられ、少量ながら出土した遺物の中には時代が推定できるものがありました。今回は、城の遺構が北側に広がらないこと、内側の堀、外側の堀、土橋付近の状況が明らかになりました。また、頂上部では江戸時代に、瓦葺きの建物があったことが推定され、不明な点が多い江戸時代の三之丞山大師に関する新たな発見となりました。

講演会「真宗史から見た市の文化財」を開催しました

平成30年2月3日（土）、市民図書館2階視聴覚室において、講演会「真宗史から見た市の文化財」を開催しました。

講師に本市文化財保護審議会委員の岡村喜史（おかむらよしじ）さんを迎え、浄土真宗や本願寺教団、貝塚寺内町（じないまち）に関係する本市の指定文化財について、真宗史から見た歴史的位置づけを中心にご講演いただきました。

講演会では、豊臣秀吉の時代に本願寺が置かれた貝塚寺内町の中心寺院である願泉寺（がんせんじ）についてお話がありました。江戸時代初期に本願寺が東西に分立した際、両本願寺が願泉寺を所属させようとしていたことが、絵画に貼られた裏書から読み取れるといった興味深い話を聴くことができました。

講演後、郷土資料展示室へ移動し、「貝塚市の指定文化財」展 第3期で展示していた願泉寺の絵画類（市指定文化財）を実際に見ながら、使われている技法などについて詳しく解説をしていただき、セミナーを終了しました。



岡村氏の講演を熱心に聴く参加者の皆さん



展示室での解説を聴く参加者の皆さん

『貝塚市の70年』を読む会 春の記念講演会を開催しました

平成28年10月にスタートした「『貝塚市の70年』を読む会」は1年半を経過し、歴史の舞台は第2次世界大戦後の復興期へと進んでいます。

平成30年4月22日（日）、貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）において、「貝塚公民館の歴史」と題し、春の記念講演会を開催しました。

講師に和歌山大学教授の村田和子さんを迎え、約26年間貝塚市の公民館及び教育委員会において、社会教育主事を務めた経験から、公民館の歴史をひも解く講演をしていただきました。開館から65年を迎える公民館が地域住民にとって身近な学習拠点であり、かつ交流の場としての役割を担っていたことを振り返る機会となりました。

5月以降も、社会教育課職員が講師として、それぞれテーマに沿った講座を毎月開催します。8頁に日程とテーマを掲載していますので、ふるってご参加ください。



村田氏の講演に耳を傾ける受講者のみなさん

古文書講座

—市内に残る身近な古文書—

◆相良城請取（さがらじょううけとり）と七人庄屋

平成30年1月10日から2月14日にかけての水曜日に、全5回にわたり、「相良城請取と七人庄屋」と題して古文書講座を開催しました。

天明7（1787）年に失脚した田沼意次（ためまおきつぐ）の居城、遠江国相良城（とおとうみのくにさがらじょう、現在の静岡県牧之原市に所在）を召し上げるために、幕府は岸和田藩主岡部長備（おかべながとも）に城を請け取るよう命じました。この時殿様の晴れ姿を一目見ようと、岸和田藩の七人庄屋たちは、泉州からはるばる相良へ赴きました。講座では、相良で藩主を出迎えたことや道中の様子を古文書から読み進めました。

受講者の方からは、「田沼意次の時代評価は一般的に良くないが、歴史小説家の中には改革者としての意次の功績を評価する作品があり、当講座により良く理解できました」、「七人庄屋が相良城まで行って岸和田藩主を出迎えたこと、江戸時代ののどかな感じがうかがわれました」との感想が寄せられました。



熱心に聞き入る受講生のみなさん

古文書講座 56（通算 267 回～271 回）開催のお知らせ

テーマ：岸和田藩と朝鮮通信使

江戸時代、朝鮮からの外交使節である「通信使」は12回来日しています。その際、岸和田藩は大坂での接待役を合わせて5回行っています。宿泊場所の警備や船着場までの護衛のほか、料理の手配などを担当しました。この時の様子を地域に残る史料から明らかにしていきます。

日 時：第1回 6月6日、第2回 6月13日、第3回 6月20日
第4回 6月27日、第5回 7月4日
いずれも水曜日午後1時15分～3時45分

会 場：貝塚市民図書館2階視聴覚室

資 料 代：100円

申 込：住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

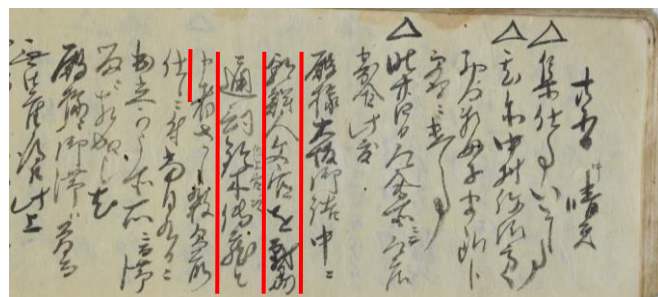
<お申し込み・お問い合わせ>

〒597-8585 貝塚市畠中1-12-1

貝塚市民図書館2階貝塚市郷土資料室

TEL 072(433)7205 / FAX 072(433)7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp



朝鮮通信使の動向がわかる「日録」（要家文書）宝暦12（1762）年4月、対馬藩の「通詞（つうじ）」（＝通訳）が通信使の一人を殺害し逃亡した事件の様子（傍線部）が記されています。

文化財講座・セミナー

郷土資料展示室

◆ 6 月

- 郷土 6 日 (水) 13:15～ 古文書講座56「岸和田藩と朝鮮通信使」①
- 郷土 13日 (水) 13:15～ 古文書講座56②
- 郷土 20日 (水) 13:15～ 古文書講座56③
- 歴史 24日 (日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会21
「公営住宅建設とインフラ整備」
- 郷土 27日 (水) 13:15～ 古文書講座56④

「貝塚市の
指定文化財」展
第1期

7 / 8 (日)

7 / 14 (土)

◆ 7 月

- 郷土 4 日 (水) 13:15～ 古文書講座56⑤
- 歴史 29日 (日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会22
「昭和の大合併と貝塚市」

「貝塚市の
指定文化財」展
第2期

◆ 8 月

- 歴史 26日 (日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会23
「貝塚市の台風被害」
- ※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館

8 / 26 (日)

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）企画展 -開催中-

「発掘調査からわかった貝塚の空襲」

今回の展示では、昭和20（1945）年7月10日に攻撃を受けた貝塚の空襲について、発掘調査の成果である出土品を中心に展示します。

会 期 平成30年8月26日（日）まで

開館時間 午前10時～午後4時

〈会期中の休館日〉

- ・ 毎火曜日
- ・ 7月16日(月・祝)
- ・ 8月11日(土・祝)

資料提供のお願い

9月に開催する企画展1「150年の時を超えて—明治時代の貝塚—」の開催にあたり、明治時代の資料を探しています。ご提供いただける資料をお持ちの方は7頁のお問い合わせ先までご連絡ください。

かいづか文化財だよりテンプス65号



平成30年6月1日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行：各1,000部